

原生林の“光るきのこ”

シイノトモシビタケ生態と栽培

林業試験場

研究のねらい

- ①希少な発光性きのこシイノトモシビタケが紀伊半島南部に自生することが近年明らかになった。このため生態調査を行い、環境教育やグリーンツーリズムの素材として活用できるようにする。
- ②学習用展示等に活用できるように、栽培技術を開発する。

研究の成果

- ①きのこ（子実体）は梅雨前から秋まで発生した（写真1、図1）。
- ②発生材の大部分はスタジイで、一部ではホルトノキからの発生も確認した。
- ③入梅期の降雨連続時には降雨3日目には多数の幼きのこが発生し、5日目には成熟した。それ以降、降雨連続期間は順次きのこの発生が続いた（表省略）。
- ④きのこはゴマ粒大の時点でも発光し発生材上で光点として確認できた。幼きのこと成熟した子実体の発光の強さの差は肉眼ではわからなかった
- ⑤幼きこの生育過程をみたところ、観察2日目には成熟し4日目からはやや発光が弱くなり、7日目にはしおれて消失したものが観察された（表1）。
- ⑥オガコ培地による菌床栽培で、発光する幼きこの発生に成功した（図2）。

成果の活用面・留意点

- ①きのこ発生時期が梅雨前～秋の長期間にわたるので、梅雨や夏休み期間の観察会等で活用できる。
- ②降雨後3日目で子実体の発光が確認できること、2～3日程度は強く発光すること等の生態を考慮して観察会等をするとうい。
- ③シイノトモシビタケの人工栽培は今までに成功例がないが、今回の試験で幼きこの発生したことから菌床栽培が可能と思われる。



写真1 シイノトモシビタケの発光

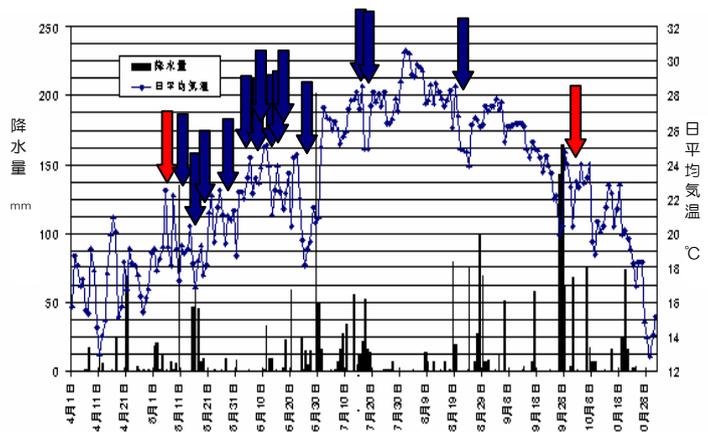


図1 2002年の気象と発生確認日

↓:那智勝浦町 ↓:すさみ町

気象観測:新宮地域気象観測所

表1 きのこ生育の観察例

観察日次	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
生育段階	生育途中の幼きこの強く発光。	成熟。強く発光。	成熟。強く発光。	やや弱く発光。	やや弱く発光。	弱く発光。	しおれて消失。



図2 菌床栽培で発生した幼子実体

(問い合わせ先:0739-47-2468)